

戦略案（代替素案）比較のための評価項目（案）

■沼津駅周辺地区の評価項目（案）

: これまでの議論を踏まえた修正箇所

地域づくりのポイント①：賑わい・活力・持続性

地域づくりの目標 (地域づくりのポイント)		評価項目 (評価指標)	No.
多世代が 住まう	・多くの世代や多様な属性の人々が住まう	・駅周辺の居住者人口の多さと集中度 (駅 1km 圏内の新たな住宅床面積)	E1-1
	・生活に必要な施設が近くに集まり、歩いてても便利に暮らせる	・徒歩圏での居住人口の集中度 (駅 500m 圏内の新たな住宅床面積)	E1-2
	・日常の中に緑や水辺などの快適な公共空間があるなどで、多世代から居住地として選ばれる	・徒歩圏における生活者のための公園や広場等の公共空間の多さ (駅 500m 圏内の公園や歩行空間の面積)	E1-3
従業者が 通う	・日々多くの従業者が通い、多くの人が行き来する	・徒歩圏に通勤する従業者の多さ (定期券利用の乗降者数)	E1-4
来訪者が 集う	・商業活動の活力が郊外店にはない魅力を提供し、さらに多くの来訪者を集める	・徒歩圏における商業施設等が利用可能な施設の規模 (駅 500m 圏内の商業等床面積)	E1-5
	・観光資源や福祉や医療などの新たなサービスの集積が、広域からも多くの来訪者を引きつける	・駅周辺地区での公共公益サービス(病院等)や観光資源の多様性 (駅 1km 圏内の新たな公共公益施設用地の数・面積) (定期券外の乗降者数)	E1-6 E1-7

地域づくりのポイント②：産業立地と雇用機会

地域づくりの目標 (地域づくりのポイント)		評価項目 (評価指標)	No.
産業	・居住者の生活を支える多様な産業が集積	・徒歩圏でのオフィス等の多さ (駅 500m 圏内のオフィス等床面積)	E2-1
雇用	・雇用が創出される	・徒歩圏での雇用者の多さ (駅 500m 圏内の従業者数)	E2-2

地域づくりのポイント③：交流を支える移動性とアクセス

地域づくりの目標 (地域づくりのポイント)		評価項目 (評価指標)	No.
歩行者のための空間	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩や自転車が快適に移動できる ・歩行者・自転車、子どもや高齢者、障害者が鉄道を挟んで南北地区を円滑に移動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者や自転車の南北移動の円滑さ (駅南北における歩行空間の大きさ) (駅南北における移動の高低差) 	E3-1 E3-2
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺都市から多くの人々が集まるために、鉄道など公共交通が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の中心性 (駅前バスターミナル容量) 	E3-3
広域アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・広域からの自動車でのアクセスを担う幹線ネットワークが充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路からのアクセス性 (東名、新東名ICからのアクセス時間) ・周辺地域からのアクセス性 (駅周辺地域における駐車場用地の面積) 	E3-4 E3-5
交通の循環	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時、緊急時ともに駅周辺での道路交通が円滑である 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北の移動の円滑さ (駅前の発生交通量に対する交通容量) 	E3-6

地域づくりのポイント④：安全で安心な地域

地域づくりの目標 (地域づくりのポイント)		評価項目 (評価指標)	No.
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波災害への備えがなされ、居住や企業立地における不安感が解消される 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難ビルの立地、堅牢建物への建て替え動向 (市街地の堅牢建物の率) 	E4-1
避難路	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に信頼できる避難経路が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北断面の交通容量 (一定時間内での鉄道北側への移動可能交通量(自動車・歩行者)) 	E4-2 E4-3

■ 広域的な観点からの評価項目 (案)

地域づくりの目標		評価項目 (評価指標)	No.
(拠点) 広域的な中心に	・ 広域的な拠点地域に ・ 地域でうまく連携して	・ 拠点地域としての人口集積、都市的サービスの多様性 (県内での人口集積率とその変化) (主たる公共公益施設の集積状況)	R1 R2
	・ 交通の要衝として ・ モノの交流拠点として	・ アクセス圏域の広がり (一定時間内のカバー人口の変化)	R3
(交流) 交流拠点として賑わう	・ 災害時の代替機能や復旧・復興の拠点として	・ 復旧・復興の際の人流や物流の代替性 (県内、首都圏、中部圏へのアクセスルート の代替性)	R4
	・ 早く結論を	・ 膠着状態を抜け出し、実施の判断がなされるまでの期間や、判断が遅れることに伴う影響 (民間投資マインドの変化)	R5
(戦略) 何もせずに 過ごすのは 問題	・ すぐに効果が現れる対策を ・ 長期的視点から抜本的な対策を ・ 効果的で戦略的な投資を ・ 市民と民間と行政が協力を	・ 対策のタイミングと効果 (時期別の累積効果) ・ 長期的な地域づくりへの効果の大きさ	R6
		・ 事業に関わる手続的なリスク (事業の中止や変更のための追加的費用や手続きに要する時間) ・ 民間投資や市民活動の誘導	R8
(財政と事業 効果) 税金は効果 的に使って	・ 沼津市財政に無理がないように	・ 将来リスクの元での市財政への負担 (市財政の幅と事業の負荷率)	R10
	・ 費用に見合った対策を	・ 社会的な効果のチェック (費用便益比の確認プロセス)	R11